

「手仕事に学ぶ子どもたちのキャリア教育支援ネットワーク」

特定非営利活動法人 地域学習プラットフォーム研究会（キャリア教育支援グループ）（富山県）

🌸 ねらい・目的

手仕事に携わる人たちの仕事観に触れ、社会にはさまざまな働き方、働きがい、生きがいがあることを学び、これから社会に出ようとする若者や、将来の職業を考える子どもたちのキャリア教育に役立てようと、市民による活動グループが5年前に生まれた。地域の手仕事に携わる人を取材し、若者の自立を支援するコンテンツ制作や、子どもたちと一緒につくるe-手仕事図鑑の活動である。この活動が、キャリア教育をすすめる地域の支援ネットワークとして発展した。

🌸 内容

(1)手仕事を発信する住民ディレクターチームの発足

インターネット市民塾のサポーターを通じて、富山県内に残る手仕事の様子を描いたイラストの紹介を受けた。このイラストに共感した人々が、これらの人たちの働く様子や技、苦労、やりがいなどを取材し、映像コンテンツとして発信しようと住民ディレクターチームが発足した。

(2)若者の社会参加支援、地域を越えた連携

この活動では、各地のインターネット市民塾に呼びかけ、さまざまな視点で地域事例を調査し、コンテンツを共同で制作することとした。5地域と一緒に制作技術を学び、それぞれの地域の手仕事などのコンテンツ制作に取り組んだ。参加した5地域がコンテンツを共有し、若者の職業観の涵養、就業意識を育てる地域活動に役立てられた。

(3)子どもディレクターによる取材体験と手仕事図鑑づくり

小中学生による「手仕事子どもディレクター」活動が始まった。手仕事イラストの中から、子どもたちが関心を持ったものを取り上げ、実際に職

場を訪問しインタビューや撮影を行い、レポートにまとめるものである（次頁 写真）。職場体験ののち、一緒に行った仲間と意見交換しながら、インタビューの回答やデジカメで写した写真、感じたことをもとに、手仕事の意味などをまとめe-手仕事図鑑に記録する事後活動を行っている。記録にあたっては子どもたちが協力して作り上げる、Wikiペディア形の図鑑が構築できる仕組みを取り入れている。

🌸 実践結果（今後の課題）

(1)子どもたちの職業観の涵養、若者の社会へのチャレンジ意欲の喚起

手仕事に携わる人を取材し、e-手仕事図鑑への制作を進めた。合わせて子どもディレクターによる体験学習にも取り組んできた。一つ一つを手作りしている様子を初めて目にする子どもたちからは、ものづくりの工夫や努力を感じて、身近に働く人たちのことに関心を持つことにつながっている。また、コンテンツ制作に参加した大学生ボランティアは、さまざまな手仕事職人の取材活動を通じて携わる人の職業対する考え方に直接触れ、自らの就職活動への向き合い方にも影響を与えている。

(2)身近な地域に関心を持ち、地域の伝統や産業を再認識

子どもディレクターに同行した親やサポーターにとって、地域に残された伝統的な製法や、職人技の継承の大切さ、難しさを再認識する機会となっている。取材の対象とした手仕事の中には、すでに廃業となったものもあり、地域の貴重な資産を記録することにも意味がある。

(3)手仕事を伝える市民活動グループ、その活動を支援する地域ネットワークの形成

96人を取材したイラストは、市民や関係者に強いモチベーションをもたらした。手仕事をテ

マにした住民ディレクターチーム、これを支援するインターネット市民塾、大学、地元テレビ局、そのほか関係機関がネットワークを形成し、継続的な活動を支えている。

(4)情報教育

子どもディレクターの取材、編集、表現活動を通じて、情報編集作業や情報共同制作能力の育成にもつながっている。情報化社会の中で、子どもたちに必要とされる、情報活用能力の育成や情報社会に参画する態度の育成などにも、職業観育成の視点から寄与している。

○今後の取り組み

これまでの取り組みを全国に広げるため、地域学習プラットフォーム研究会から、各地のインターネット市民塾に活動の参加を呼びかけている。

(1)手仕事学習データベースの構築

各地域で構築されるe-手仕事図鑑のメタデータを記録し、多様な手仕事や、職場体験情報を網羅したデータベースの構築を進めたい。子どもたちの記録したWikiペディア型の記事からも、キーワードを抽出し、子どもたちの目線で検索することが可能となる。

(2)手仕事学習ポータルサイト

各地域の学習活動を効果的に進めることができるよう、手仕事学習ポータルサイトを開設し、各地域の手仕事学習への案内機能を担うとともに、全国のどこからでも検索することができるようにする。

また、各地域の実践的な指導記録をポータルサイトに蓄積できるようにし、地域を越えて指導ノウハウを共有する。手仕事学習ポータルサイトを通じて、すでに構築されているe-手仕事図鑑の活用を促進するとともに、新たな地域でe-手仕事図鑑の構築に取り組む際のテンプレート的な利用も可能とする。

(3)子どもたちによる事前学習、職場体験

事後の学習では、地域の青少年育成活動に取り組んでいる人々の支援が不可欠である。これらの人々に子どもたちの職業観育成のための教育方法ならびにこれら教材の活用方法について理解してもらう指導者向け実施マニュアルをより充実させ、各地の活動を支援していく。



写真・子どもディレクターの取材・体験

PR (特徴・工夫・努力した点など)

(1)全国への広がりのある活動

手仕事は全国にさまざまな形で営まれている。多くの職種と子どもたちによる体験学習の実践の集積が、手仕事学習の効果をより高めると考えている。研究会からの呼びかけですでに4県に活動が広がっており、さらに各地への展開が期待できる。

(2)活動のプロセスを支援するITプラットフォーム

e-手仕事図鑑は、収録されているコンテンツを単に教材として活用するものではなく、取材、編集、交流学习を通じたプロセスに学ぶ工夫をたくさん行っている。また、子どもたちの活動を支援する関係者のためのプラットフォームでもある。

(3)インターネット市民塾、大学、地元テレビ局からの地道な活動支援

住民ディレクターチーム発足当初より、インターネット市民塾、富山大学、地元民法テレビ局がタイアップし、取材、編集などの指導を担ってきた。手仕事を取材した市民活動の成果を番組枠として提供したテレビ局担当者の努力は大きい。

備考 (実践の参考となる公開中のHPアドレス、写真、資料等)

富山インターネット市民塾

<http://toyama.shiminjuku.com/>

若者未来eラーニング

<http://mirai.shiminjuku.com/>

e-手仕事図鑑

<http://shiminjuku.org/teshigoto/>

住民ディレクター活動

<http://211.19.194.14/home/jdirector/index.html>